



校内研通信

本渡北小学校

令和5年 12月15日(金)

第8号 岡田 明日香

研究授業⑦を振り返って

国語部会：野中先生（外国語科）

单元名 Unit7 My Best Memory.

本時の目標 「相手に自分のことを知ってもらうために、思い出の学校行事を伝え合うことができる。」

視点1 課題設定の工夫

ALT に対して思い出の学校行事を伝える発表を行うことで、相手意識がもてるようにする。(構想案より)

→ALTに対して思い出の学校行事を伝えるという単元のゴールを設定したことで、相手意識をもつことができ、それにより、1時間ごとの授業がつながり、意欲を高めることができるよう、工夫されていました。事後研では、単元のゴールの相手意識をだれにするかが重要という話題が出ました。

視点2 探究的な学び合いの充実

ペアやグループでの学習を通して、相手意識をもって言語活動ができるようにする。(構想案より)

→様々なペアの児童と思い出に残る行事をたずねたり、答えたりする活動を取り入れたことで、繰り返し表現したり、外国語に触れたりすることができていました。また、Teamsでの音読機能を活用したことにより、客観的に自分の発音を聞くことができるとともに、授業者の評価材料としても適切なものになっていました。事後研では、学び合いの前の教科的な指導について検討が行われました。児童同士が主体的に学び合うためにも、フレーズの練習や、デジタル教科書の音声機能を活用した指導などの時間が必要だという意見が出ました。

国語部会：坂本先生

单元名 筆者の考えを読み取り、社会の生き方について話し合おう

「メディアと人間社会」「大切な人と深くつながるために」

本時の目標 「大切な人と深くつながるために」を読んで、論の展開の仕方や表現の仕方を捉え、筆者の考えを読み取ることができる。

視点1 課題設定の工夫

筆者の主張に対する共感度を直線に表す課題を設定することで、納得できる部分とできない部分を、叙述や経験をもとに考えさせ、自分の考えを形成できるようにする。(構想案より)

→筆者の主張に対して、自分はどう思うかという視点からの読み取りを行う事で、児童が必要感をもって学習に取り組むことができていました。また、前時の教材と同じ学習活動の流れで進めたことで、本時の課題をしっかりと理解し、学習に取り組むことができていました。事後研では、要旨をまとめるという本時の中心課題について検討が行われました。大切な文や言葉を見つけ出すだけでなく、字数制限をつけた課題にすると、さらに質の高い学びにつながるとともに、学力調査にもつながるのではないかという意見が出ました。

視点2 探究的な学び合いの充実

ペアやグループの対話や討論が活発になるよう、意図的なグループ編成を行う。(構想案より)

→一人学び、ペア、グループと様々な学習形態を用いて課題に取り組むことができ、自分の考えをもつためにじっくり考え、それを吟味する深い学びを行うことができていました。また、これまでの単元の学びをつなぐ『虎の巻』が作成されていたことで、一人での解決が難しい児童もそれをヒントとして、自分の考えを形成することができていました。事後研では、ICTの活用方法について議論が行われました。目的に合わせて使うアプリを分けたり(個人は発表ノート、グループ協議はジャムボードなど)、カードの色分けをしたりすることで、さらに学びを深めることができるのではないかという意見が出ました。

算数部会：緒方大先生

单元名 割合

本時の目標 百分率の増減が示された問題で、比較量の求め方を考えたり説明したりすることができる。

視点1 課題設定の工夫

単元を通して、本時の終末に次時の問題を提示する場面を繰り返し設定し、自分の考えをもって次時の学習に臨もうとする意欲を高める。(構想案より)

→前時に問題に触れていたことで、解決の見通しをもって取り組むことができた児童が増えていました。また、事前に予習をしてきた児童の考えから、課題に対して何につまずいているのかを、早期に発見することができ、効率的に学びを進めることができていました。事後研では、単元デザインについて検討を行いました。単元を通して、何を身につけさせなければいけないのかを明確にし、指導事項をしっかりとおさえる時間と、問題解決型の学習で、児童を中心として学びを深める時間のバランスを考える必要があるという意見が出ました。

視点2 探究的な学び合いの充実

タブレットを活用して、めあて、解き方、まとめ等、友達と共有できるようにし、他者の考えと自分の考えの比較を通して、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。(構想案より)

→めあてや解き方、まとめなど、他者参照をしながら学習を進める場面が多くあり、学び合いの中で自分の学びを広げたり、深めたりすることができていました。また、本時の課題に対して、自分はどう学んでいくのかの「個人の学び方のめあて」を立てたことで、目標をもって学習に参加することができたり、振り返りが深まったりすることができていました。事後研では、学びのめあてについて検討が行われました。系統性をもって学びの姿を決められると、学校全体の学びに向かう力が高まるのではないかという意見が出ました。

算数部会：松本浩先生

単元名 三角形と四角形

本時の目標 辺や頂点に着目して、三角形や四角形に分け、その理由を説明している。

視点1 課題設定の工夫

ジャンプの問いでは、学習した構成要素を使って不備な部分を探し、かき直していくという活動を通して、説明する場面をつくり、学びを深めていく。(構想案より)

→授業の前半で指導事項を確認し、全体でおさえ、授業の後半のジャンプの問いで、学びを活用するという学習の展開にしたことで、全体の理解度を確かめながら進めることができていました。また、本時の課題と関連したジャンプの課題にしたことで、児童の思考の流れもつなげることができていました。事後研では、評価について検討をしました。児童が学び合ったことを確かめるためにも、課題を解決するとともに、考え方を説明できるかペアで説明しあい、相互評価を行う場を設定するとよいのではないかという意見が出ました。

視点2 探究的な学び合いの充実

友達と自由に交流する中で、自分の考えに自信をもったりヒントをもらったりすることができるようにする。(構想案より)

→一人学びのときにも交流してよいとしたことで、児童が課題に対して主体的に取り組もうと、友達に声をかけたり、モニターに提示されている他者の意見を参考にしたりする姿が見られました。また、ICT 機器もグループで1台と制限したことで、自然に学び合いが生まれていました。事後研では、振り返りについて意見が出ました。本時の児童の振り返りには、最初の考えからどう変容したかや、誰のどんな考えに納得したのかなどが書いてあり、1時間を通しての学びをしっかり振り返ることができていました。毎日の積み重ねの必要性について話し合いました。

理科・社会・生活・音楽部会：山下先生

単元名 「てこのはたらき」

本時の目標 てこのうでがつり合うとき、左右の腕の「力を加える位置」や「力の大きさ」の間には、どんな規則性があるか、実験結果の数値を表に表したり、数値の関係性に注目したりして考えることができる。

視点1 課題設定の工夫

導入時に、左うでのおもりにつり合うように、右うでにおもりをつり下げること、児童がきまりに興味をもてるようにする。(構想案より)

→これまでの学び(両腕の同じ距離に同じ重さをつけると釣り合うこと)と本時の学び(「力の大きさ」×「距離」が両腕で等しいとき釣り合うこと)の違いを導入時に提示したことで、児童の意欲を高め、学習に入ることができました。また、導入の時間を短くすることで、実験の時間を十分にとることができ、規則性に気づき、考察することができていました。事後研では、課題の設定の仕方について話し合いが行わ

れました。今回は導入を短くするために、前時の段階から課題が設定されていましたが、教員の実験の様子を見ての児童の感想等から課題を設定することで、全員が確実に課題を捉えることができるのではないかという意見が出ました。

視点2 探究的な学び合いの充実

自分の班と他の班の記録を比較できるように、Teams を活用して実験結果を共有できるようにし、そこから考察へつなげることができるようにする。(構想案より)

→他の班の実験結果も参照することができたことで、規則性への理解を深めることができたり、見つけた規則性の気づきを共有したりすることができていました。また、まとめにつながる言葉を並べ替える作業を、グループで一枚のホワイトボード上で行ったことで、結果から考えられることを共有し、考えを交流させながら本時の学びを振り返ることができていました。事後研では、効果的な学び合いについて検討が行われました。評価基準を児童に事前に提示し、何ができるようにするのか、何を理解してほしいのかを明確にすることで、児童の学びに対する目標が定まり、進んで学び合いが深まっていくのではないかという意見が出ました。

理科・社会・生活・音楽部会：永野先生

単元名	「電気の通り道」
本時の目標	身近な物が電気を通すか通さないか調べる活動を通して、電気を通す物と通さない物があることを理解できる。

視点1 課題設定の工夫

導入で、児童の知的好奇心が高まるような事象提示を行い、意欲的に活動に取り組むことができるようにする。(構想案より)

→電気を通すものと、通さないものを判別するという課題をつかむために、ブラックボックスを活用した導入にしたことで、児童が箱の中にはどんな物があるのだろうと、興味深く意欲をもって学習に取り組むことができていました。また、教室の中から電気を通すものを探すという、日常生活と関連したジャンプの課題を設定したことで、学んだことを生かしたいと進んで課題に取り組む様子が見られました。事後研では、予想の立て方と、その活用の仕方について議論が行われました。予想の段階で、「なぜそれが電気を通すと考えられるのか」という発問をすると、さらに学びが深まったのではないかという意見が出た一方で、カードの置く位置が工夫された板書になっていたことで、児童の迷いも視覚的に表すことができ良かったのではないかという意見も出ました。

視点2 探究的な学び合いの充実

実験の行い方や考察が分からない児童も班活動を行い、実験の手順や結果の考察について、班員と意見を交流することで、学びや理解を深められるようにする。(構想案より)

→班の中で実験を進めたことで、一人では活動が難しい児童も友達の様子を見ながら、実験に取り組むことができ、どんなものが電気を通すのか実験結果から考えることができました。また、ICT を活用して実験結果を整理したことで、それぞれの班の学びも共有することができていました。事後研では、ICT の活用の仕方について議論が行われました。実験結果を入力式にするのではなく、選択式やカードの移動式にししたりする工夫を加えることで、より効率的な学び合いになるのではないかという意見が出ました。

道徳部会：井手先生

題材名	正直で素直な心「いたづらがき」A(2) 正直、誠実
本時の目標	自分がしてしまったことへの対処方法に悩んでいる主人公にどのようにするとよいかについて考えることを通して、いけないことをしてしまったときには素直に認め、謝ることができるようにする態度を育てる。

視点1 課題設定の工夫

導入でアンケートを提示し、うそをつきたくなったりごまかしたくなったりする自分のことを思い出し、自分のこととして考えることができるようにする。(構想案より)

→児童のアンケートの結果から本時の課題につなげたことで、児童の「つついやってしまう」という心に寄り添った導入となっていました。また、登場人物にアドバイスをするという中心発問にしたことで、児童が意見をもちやすくなったり、自分事として考えたりすることができていました。事後研では、補助発問について検討が行われました。ねらいに沿った考えを深めるための補助発問や、児童の考えの引き出し方の工夫など、「よさ」を児童の言葉から整理することができるような展開にしていきたいという意見が出ました。

視点2 探究的な学び合いの充実

役割演技を行うことで、自分だったらと多面的・多角的に考えを深められるようにする。(構想案より)
→中心発問で自分の考えを書く前に役割演技を取り入れたことで、児童が課題に対してどう向かっていけばいいかが分かり、素直な自分の考えを表現することができていました。また、全体で交流する前にペアトークを取り入れたことで、全員が自分の意見を誰かに伝えることができ、全員が参加できる授業になっていました。事後研では、児童の意見に対しての価値付けの仕方について検討が行われました。自分を見つめるときにも、本時のねらいに沿ったことを考えることができるようにするために、その行動の「よさ」など、ねらいにあわせて焦点化していくとよいのではないかという意見が出ました。

特別支援部会：生田先生

単元名 自立活動「自分で言えるって“いいね”」
本時の目標 忘れ物をしてしまったとき、忘れたことや、その理由を伝えるなどして、自分の言葉で表現しようとするができる。

視点1 課題設定の工夫

学習の必要性を感じ、主体的に学習できるように、学級の中での児童の困りごとから課題を設定する。(構想案より)
→学級の中での児童の困りごとから課題を設定したことで、何ができるようになるかといのが児童の中でも明確になり、自分の目標に向かって一生懸命学習に取り組む姿が見られました。また、ゴールが明確だったことにより、自分の学びを生かした児童の言葉から、まとめをすることができました。事後研では、課題設定を中心に話し合いが行われました。学級担任や、関わっている指導者とどんな力をつけていくのかを整理するためにも、連携をとることが大切だという意見が出ました。

視点2 探究的な学び合いの充実

ICTを活用し、自分の言動を客観的に見たり、聞いたりすることで、児童が主体的に進めていけるようにする。(構想案より)
→ロールプレイを行う前に、自分の言動を客観的に見るための動画を撮影したことで、意欲の向上が見られました。また、自分ができるようになりたいことを互いに共有し、他者からの評価もあったことで、児童の自信につなげることができていました。事後研では、様々な実践をどうつなぐかについて検討が行われました。これまでの研究の積み重ねを、他学級や今後の実践につなげていくことで、より深い学びになるという考えが出ました。

◎研究発表会に向けて

研究授業①	児童の実態を踏まえた「目指す児童の姿」の設定(視点1) 児童の実態や、発達段階を踏まえた「学び合い」の仕方の工夫(視点2)
研究授業②	本時のねらいに沿った課題やまとめ、ジャンプの問いの設定(視点1) ICTを効果的に活用するための、教師のスキルアップ(視点2)
研究授業③	児童が主体的に取り組むことができるような課題の設定→教師主体から児童主体へ(視点1) 児童の実態を踏まえ、意図を明確にした「学び合い」の具体的な姿
研究授業④	これまでの経験や学びをつなぐことができる課題の設定(視点1) 児童が主体的に取り組むことができる学び合いの充実(視点2)
研究授業⑤・⑥	何を学び取らせるか、どのような考えをもってほしいかを明確にした課題の設定(視点1) 自他の考えの高まりや深まりを実感するための振り返りの工夫(視点2)

これまでの研究を振り返って・・・

今年度はこれまでに32本の研究授業を行ってきました。一本一本に学びがあり、その学びを各部会でつないでいただきながら、研究を深めていきました。研究授業の準備、実施、そして事前研事後研でたくさんの意見をつなぎ、研究を深めていただき、本当にありがとうございました。

今年度の研究の視点は①課題設定の工夫[単元デザインの工夫/導入の工夫/ジャンプの問い]②探究的な学び合いの工夫[学び方、形態の工夫/学習ツールの効果的な活用/振り返りの工夫]です。32本の研究授業から得た、この2視点6項目それぞれの学びを、1月の研究発表会につなげていくことができるよう、授業づくりや実践発表準備にご協力、よろしくごお願い致します。